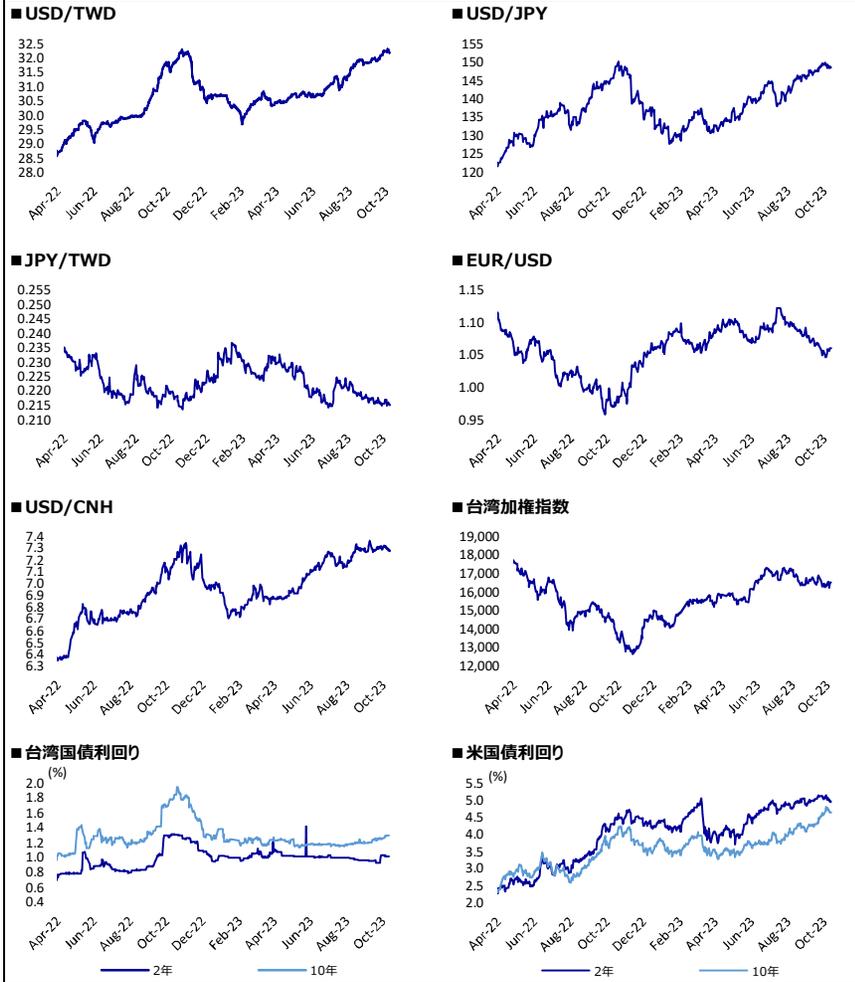


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは週初上昇し、一時7年ぶりの台湾ドル安水準を付けるも、その後は上値重く推移し結局週間では下落。週初10/2は32.235でオープン後、前週末に米政府機関の閉鎖が回避されたことでリスクセンチメントが改善する中、台湾ドル買いが優勢となり、32.2台前半で推移。10/3は堅調な米経済指標を受けて上昇を続ける米金利の値動きを背景にドル買いが優勢となり、32.3台前半まで上昇。10/4は外国人投資家による台湾株の売り越しが加速する中、台湾ドル売りが加速し、32.435まで上昇。約7年ぶりの高値を更新した。10/5は米雇用指標も市場予想対比弱い結果となったことから米金利の上昇も一服する中、台湾株が堅調に推移。徐々に台湾ドル買いが優勢となり32.2台後半で揉み合いの展開となった。10/6は前日の米金利低下を好感し台湾株が堅調な推移を続ける中、輸出企業によるドル売りの動きも後押しとなり一時32.205まで下落。その後32.2台前半で揉み合いの推移となり、最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の32.207で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は401.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は週初上昇し、一時昨年10月来の円安水準を付けるも、その後は上値重く推移し、結局9/29引け対比おおむね変わらずでの引けとなった。週初10/2は149.45でオープン後、前週末に米政府機関閉鎖が回避されたことでリスクセンチメントが改善し、米金利が上昇する中、円売りが優勢となり、149円台後半で推移。10/3には米8月JOLTS求人件数が市場予想対比良好な結果となったことから、米金利が一段上昇。ドルも連れ高となり一時150.16まで付け、昨年10月以来の高値に。しかしその直後、特段材料の無い中一時147.30円まで急落し、市場では為替介入が入ったとの観測が高まったものの、すぐ戻し、149円を挟み揉み合いとなった。10/4は為替介入への警戒感が熾る中同水準の狭いレンジで推移した。10/5はFED高官からハト派な発言が聞かれる中、米短期金利の低下が進み、ドルが連れ安となる展開となり148円台後半でもみ合いとなった。10/6は米9月雇用統計が市場予想対比堅調な結果となったことから米金利が大幅に上昇。米経済の堅調さが再確認されるとドル買いが優勢となり149円台前半で推移。最終的には先週比おおむね変わらずの149.30で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.000-32.200
今週は上値が重い展開を見込む。米国株、台湾株が上昇に転じる中、台湾ドル買いの動きが優勢となり、USD/TWDは下落しやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：148.25-151.00
今週は上値を試す展開を見込む。米9月雇用統計では非農業部門雇用者数が大きく増加している結果となり、米経済が堅調なことが再確認された。中東における地政学リスクは熾るものの、日米経済への影響は限定的であり、ドル円は上昇が見込まれる。

今週の予定

| | |
|-------------|-----------------|
| 10/9 (MON) | 台湾休場 |
| 10/10 (TUE) | 台湾休場 |
| 10/11 (WED) | 台湾9月貿易収支、米9月PPI |
| 10/12 (THU) | 米9月CPI |
| 10/13 (FRI) | |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。